

令和 7 年度 第4回遊佐町振興審議会会議録

- ・開催日時 令和 7 年11月26日(水) 午前 9 時～午後 0 時 28 分
- ・場所 遊佐町役場 議場

■出席委員

真嶋慎一、阿部智井、松宮竜也、本間優子、大場清悦、池田信幸、筒井義昭、菅原覚、榎本真一、森元拓、渡邊宗谷、後藤淳子、白旗康子

■欠席委員

齋藤勝広、松本三也、渡会健、佐藤仁、東海林和夫、伊原光臣、小野寺ゆり

■町出席者

副町長、教育長、総務課長、産業課長、地域生活課長、健康福祉課長、町民課長、教育課長、議会事務局長

■事務局

渡会和裕、佐藤裕也、遠田久幸、瀧口めぐみ

次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 会議録署名委員の指名 筒井義昭委員、菅原覚委員
- 4 協議
 - (1)基本計画案について
 - (2)遊佐町総合発展計画(第9次遊佐町振興計画)策定に係る答申内容について
 - (3)今後の予定について
- 5 その他
- 6 閉会

協議の質疑応答

- (1)基本計画案について

4-1 福祉

(委員)

総合福祉センター改築検討について、改築の基本方針はあるか。

（健康福祉課長）

総合福祉センターは今後 10 年間の中で検討を進めるものであり、基本方針も含めてこれからである。

（委員）

これから町民体育館、生涯学習センターも改築するという文言が見られる。改築にあたっては体育館、学習センターも含めて1カ所に集める検討をしてはどうか。

（健康福祉課長）

福祉課だけでなく他課と調整しながら検討していきたい。

（委員）

包括的な地域福祉の推進について、幼稚園の菖蒲たたきという行事があり、遊佐病院に赴いた際に、子どもの声を聞いて涙を流す方がいた。お遊戯会、学習発表会などの取組を園内に閉じ込めず、地域に学びの場を拡げる支援のあり方があるのではと考えている。一方で移動手段がないため、その仕組みを整えながら、学校・幼稚園も含めた子どもの活力が地域福祉の推進につながるという視点が必要だと感じた。

支え合いによる高齢者福祉の推進について、支援を一方向に考えないことが大事。まちづくり協議会では3世代交流をととても丁寧にやっており、高齢者の方が支援されるだけでなく、支援する立場、役割を果たせる仕組みが重要と感じた。

（健康福祉課長）

子どもたちのパワーは感じる場所。高齢者にとっても活力になると感じており、そういった視点の中で取り組んでいきたい。高齢者のいきがいくりの部分について、住民主体の介護予防の取組は各地区で行っており、カフェ、エプロンサービスなどの取組を更に進めていけるように支援していきたい。

（会長）

成果指標の参加者数という指標は、介護される側だけでなく介護にならないような視点が含まれているようだ。ただ、主要施策の中ではそこが見えにくくなっているという考えからのご意見であると感じた。

（健康福祉課長）

互助・共助というところで、介護予防など地域の中での取組を進めていきたい。

（委員）

高齢者の災害対応について、別項目として入れる必要性はあるのでは。水害があった際の避難や、施設入所者の対応が後手に回らないような取組を出した方がよい。

（健康福祉課長）

介護・医療・障がいの関係者が集まる会議があり、災害が起きたときの支援等をテーマに勉強会を開催している。また個別避難計画ということで高齢者一人世帯の避難支援等について情報共有をしている。昨年の大雨災害の際は、災害ボランティアセンターを開設しているが、被害に遭われた方へ

のニーズ調査等を含めて、現地に赴くなどの活動を行い、顔が見える関係の中で取組を行った経過がある。

（委員）

令和7年度の町の統計では高齢者一人暮らし世帯が 664 世帯、 高齢者夫婦世帯が 538 世帯ある。3軒に1軒が高齢者世帯で構成されている現状において、民生委員や弁当の配布活動だけで高齢者世帯を見守ることができるのか疑問である。民間企業の見守りサービスなどの導入の検討及び利用料の一部助成といった形で見守りを強化する取組が重要であると考えます。

（健康福祉課長）

民間の力を借りる必要性は感じている。健康増進等に関して民間企業と連携協定を締結しており、そういったものを活用しながら見守り体制を整えていきたい。

（委員）

区長として活動している中で、民生児童委員を選ぶことが難しくなっている。仕事をしながら活動するのは難しく、また現在されている方もとても大変ということになり手がいない。町だけでなく国全体の課題だと思うが、委員の方へのサポート・負担を減らしていけるような体制がないと持続しないと心配している。

（健康福祉課長）

生活困窮、虐待など重いテーマに対応いただいております、働きに感謝しています。どの自治体でも抱えている課題であるが、遊佐町では定例の民生児童委員会での会議等を通じて困難ケースの共有など、一人で抱え込むのではなくみんなでサポートするところで支え合いの体制を築いている。

（会長）

問題認識は当然持っており、基本計画の中でも地域包括システムをきちんと進めていくということである。

（委員）

方向性は示されているが、現状委員をされている方の困難感拭えるものではないと考える。

（健康福祉課長）

重責になっていることは承知している。サポート体制については、更に検討していきたい。

4-2 健康・医療

質問・意見なし

4-3 子育て

（委員）

成果指標で放課後児童クラブの待機児童数が 20 人いるとのことだが、算出方法は。また放課後児童の健全育成について具体的にどのような取組を今後推進すべきと考えているか。

(健康福祉課長)

待機児童数について、町内に2クラブありそこでの待機者ということで算出した。今後の方向性については、開校準備委員会において放課後の居場所確保の協議を行ったことに基づき、現在放課後児童クラブの新たな受け皿の準備などを進めている。放課後児童対策推進会議等で学校、保護者など関係者が集まる会議で、放課後児童クラブの体制について検討を進めてきた経過があり、また令和8年度から新たに放課後児童クラブを開設する方向で進めている。

(委員)

出生数について、令和6年度は32人であり目標値はそれより多くなることを設定しているが現状はどうなのか。歯止めがかかるような状況なのか、それとも減少していく見込みなのか。

(健康福祉課長)

出生数は子育て環境だけでなく、地域内の人口動態の影響が多い。今年度の出生見込みは32人となっており、なんとか昨年度並みを維持している。

(委員)

35人という目標は、担当課としては意欲的な数値として捉えているのか。

(健康福祉課)

基準値である32人を少しでも上回るように出産・子育て環境の体制を整えていきたいと考える。

5-1 学校教育

(委員)

不登校児が全国的に増えている中で、町の支援、対策は。

(教育課長)

不登校児童への対策、支援については学校と家庭が連絡を取り合い、状況を把握しながら取り残されていると感じないような対応を行っている。相談窓口として学校の先生以外では、ソーシャルワーカー、スクールカウンセラーにつなぎ、専門的な方からの支援をお願いしている。また保健室登校等を始め、オンラインなどの学習機会もある中で多様な通学の場と見守りの場を作るなどの支援を行っていききたい。

(委員)

成果指標で学校給食の県産品割合ということで掲げられているが、県産品でなく遊佐の食を食べて感じてもらう取組が大事では。せっかくある遊佐町のおいしいものを学校給食で提供する機会を多く取り入れてもらいたい。

(会長)

KPIそのものは良いとして、遊佐の産品をもっとPRする場をもっと設けてはという意見である。

(教育課長)

本町は県産品の割合が高いと評価されている。旧小学校の時から地元食材を使うということは大

事にしてきたところであり、ひまわりの会など地域の生産者の方に支えられながら給食に提供している。一方、町内産だけでは通年提供するのが難しいという課題はあるが、遊佐の食をしっかりと児童生徒にPRする取組は重要であるし、魅力ある食材を紹介する取組を進めて行きたい。

(会長)

事務局から紹介のあったゆざごつつおの日など、特別な日に特別なものを提供できるような取組についての意見もあった。

(委員)

遊佐産の米を使っていると言う話もあったが、新米が出たら新米を食べるなど、特別な機会提供が必要だと感じた。

(委員)

現在遊佐小学校、遊佐中学校で児童生徒数が合計 703 名いるが、5 年後には 522 名になる予想である。児童数が減ることで空き教室が発生するが、単にその場所をもの置き場にするのではなく、地域資源を生かす体験的な学習の推進の取組の中で、地域住民が関われる教室の開設を求める。

(教育課長)

空き教室の有効活用といった部分で、地域に開放できるような取組について学校の先生たちとも十分協議しながら検討していきたい。

(委員)

スクールバスの利用者が冬場は増えるが一般の方も乗車することになると、児童生徒の利用者が乗車できないこともあったと伺った。そのような事がないように配慮してもらいたい。またバス停についても、隣の集落まで歩かないといけない子どももいるようである。集落内で乗車できるような体制に見直してもらいたい。

(教育課長)

特に冬場、中学生の生徒が増えることがあり混み合う状況であると伺っている。うまく乗車できなかったり、立って乗車するなど不便をかけている部分も承知している。利用する生徒数が減る中でバス路線の見直し、バス停の設置についても集落の状況や利用状況などを踏まえて、地域の声を聞きながら現実的な対応をしていきたい。

(委員)

子どもたちのために最善を尽くしてもらいたいと思う。

(委員)

民間の幼稚園だと県産品、遊佐産の食の割合を高めたいが、給食費との兼ね合いでとても難しい状況。保育園、幼稚園に対してもそういった機会ができるような取組を推進していただくことを期待する。

学校教育に対して、配慮が必要な児童生徒への支援体制は、遊佐町はとても充実していると感じ

ている。基本計画の文言について2点ほど。1点目が「地域と連携した学校運営」の文言に「児童」を追加していただきたい。2点目が「小中高連携事業の実施」についてこれまでも取り組んできている中で「幼保」を追加していただきたい。

（教育課長）

幼児からの食育の取組について各課と連携した取組を検討したい。幼保・小中・高の連携ということで、これまでの取組を踏まえて、更に連携を深めて行きたい。

（会長）

文言の追加について、他の委員も問題ないか。→異議なし。

5-2 生涯学習

（委員）

生涯学習センターの改築について、総合福祉センターの改築も含め、1つの施設だけでなく総合的な施設の整備をお願いしたい。生涯学習センターホールの緞帳に不具合が度々発生しており、また空調設備の不具合などを感じている。来訪者の満足度といった点からも喫緊の課題として取り組んでいただきたい。

（教育課長）

生涯学習センターの改築については、今後3年間で基本構想、基本計画を作っていきたい。町民が利用する主要な施設であるため、他の課が抱える課題や複合的な整備ができるかといった視点を含め検討を進めていきたい。基本構想策定の際に町民の意見を聞く機会を設けながら、どういった施設を望んでいるかという観点から整備を進めていきたい。生涯学習センターの老朽化部分についても対応していきたい。

（会長）

縦割りでなく、町にとってどういう施設が望ましいのかという点から進めていただきたい。

（委員）

学校統合に関わった際に地域の方から、地域に子どもの声を絶やさないでほしいという声が印象深く残っている。社会教育活動の推進の中にぜひ地域人材を生かした体験プログラム、地域づくり協議会で進めている取組をぜひ計画の中に位置づけてほしいと思う。わんぱく広場、わらびっこ探偵団など各地域の方と一緒にあった取組により、こども達の社会教育力の向上につながっていると思うので、そこへの支援と魅力ある取組を継続して行っていたきたい。

（教育課長）

社会教育の推進にあたって、各地区のまちづくり協議会での活動が核となっている。子どもたちの声を地域に絶やさない中で、多くの大人の方からバックアップしてもらっており、町としても社会教育アドバイザーを活用しながら引き続きまちづくり協議会と連携した取組を行って行きたい。

（会長）

具体的な施策については実施計画に盛り込まれるということか。

(教育課長)

実施計画の中で取り組んでいくことになるが、社会教育の具体的事業は各地区まちづくりセンターの自主事業というところであり、具体的に教育課としての事業計上はない。

(委員)

基本計画に書いてある各項目について、必ずしも1つの項目のみでなく重複する分野にまたがる取組がある中で、今回は＜再掲＞という表記をしていない。考え方として、最も関連すると思われる施策に紐付いているという考え方で良いか。

(事務局)

＜再掲＞という表記はしておらず、最も関連のある分野に記載するという考え方である。

(委員)

それを踏まえた意見になるが、P75 の広域行政の分野の中で、東北公益文科大学の公立化についての言及がある。子どもだけでなく大人の学びの受け皿としての公立大学を活用していただきたいと考えており、大人の生涯学習につながっていく取組である。文言として載せて欲しいということだけでなく、遊佐の町民の方にも東北公益文科大学を、学習の場としてぜひ使ってもらいたいし、生涯学習の場が町外にもあるという話を是非町民に対し広げていただきたい。

(事務局)

今回の計画書では特に再掲を用いてはいないが、例えば学校教育の分野の部活動の地域移行はスポーツ分野にも記載していることから、大学の活用についても社会教育の中に組み込めないか検討したい。

(会長)

遊佐町民の税金も投入して大学の公立化を進めていく中で、大学側としてもぜひ生涯学習の場として活用してもらいたいと思っている。

(委員)

生涯学習センターのホールは老朽化が進んでいる。緞帳をはじめ施設の設備は改築まで待てないような状況にもある。

(教育課長)

ホール関係の様々な不具合は聞き及んでいるところである。屋根等建物全体に関わる部分は難しいが、設備については改築を待たずに修繕対応はしていきたい。

5-3 スポーツ

質問・意見なし

5-4 文化・芸術

(委員)

民俗芸能等の様々な歴史文化の継承について、人口減少等の問題があり難しいと考える。町内だけでなく様々な情報発信をしながら町外の方を活用するなど広域的な視野を持つことが必要では。

（教育課長）

人材確保が重要である。小山崎遺跡の整備なども含め、他の地域からの登用といったところを含めて、発信・PRをしながら遊佐町に来てもらえる方策を検討したい。

（委員）

芸術・文化に触れる機会に関して、小中高生が演劇・合唱・演奏などを見る機会はあるのか。今の遊佐町のそういった機会がないのであれば復活していただきたい。

（教育課長）

本物の芸術を見せる取組について、国の事業などを活用しながら行っていきたい。来年度は豊島区からバレエ団を招聘し、小中生に見ていただきたいと思っている。

（委員）

ボランティアで演奏会のお手伝いをしているが、町の助成金などを使って山形交響楽団などを招聘しているが、町外に住んでいる方のほうが価値を見いだしていることが多い。町民が芸術活動に参加、鑑賞する機会を増やしてもらいたいと思う。

（教育課長）

幼い頃から芸術文化に触れる機会を作るということもあるし、各種コンサートの価値を町民にしっかりと伝えていき、芸術文化活動の普及を進めて行きたい。

（委員）

小山崎遺跡について、受入れの整備が遅れておりオーバーツーリズム状態になっている。観光客に不便を感じさせている状況であり、丸池様を中心として回遊できるような遊歩道整備をはじめ、駐車場・トイレなど観光客を受け入れられるような整備を進めていただきたい。

（教育課長）

小山崎遺跡の整備については、駐車場・トイレなどはエントランス整備ということで必要であると認識しており、一体的に整備を進めていきたい。

（委員）

ジオパークの情報発信について、インバウンドが来るかもしれない中でどのような媒体・方法を使って行っているのか。

（企画課長）

ジオサイトが町内に何カ所があるが、開設看板の設置、英語併記にするような整備を行うほか、パンフレット、HP、WEBサイト等を運用している。WEBサイトに英語版を追加する取組をしているが、今後世界を目指す中で外に対する情報発信は重要であると考えている。

6-1 まちづくり

(委員)

蕨岡まちづくりセンターを旧蕨岡小学校に移転するが、センターで使用する部分を除いてもまだ空き教室があり、この部分を蕨岡地区内の地域文化財の保存に活用したいと思っている。また、集落支援員の配置について、具体的にどのような活動を行う想定か。

(事務局)

まちづくりセンター移転後のセンター以外の空いたエリアの活用について、現行の計画ではまちセン以外は教育課が管轄するエリアとなっており、地域の方が使う場合は建物の改修が必要になってくると思われるため、どのような活用が可能か検討し回答したい。集落支援員については、国の制度であり、具体的な活動については区長さんや集落の役員の方などと協力しながら、国のチェックシートを元に各集落の現状把握ということで考えている。

(委員)

空き教室の活用について蕨岡の中でも企画課、教育課、健康福祉課など管轄が異なっている。空き施設の管理運営を1つの課で対応できるような体制にしていきたい。

(会長)

短期的には難しいと思うが、要望としては事務局で受けるということだと思う。

6-2 広報・公聴

質問・意見なし

6-3 行政サービス

質問・意見なし

6-4 行財政・広域行政

質問・意見なし

全体を通しての質疑

(委員)

P52 観光客数の成果指標について、月に換算すると月に 20 万人ほど遊佐町への観光客があるということだから多いと思うが、積算方法を伺う。

(企画課長)

確認して回答する。

(委員)

全体の構成について、今回の計画では新たに「町民の役割」を追加したのが良かったと思う。計画

は行政だけでなく町民との協働によるまちづくりの視点から入れているという話であった。町民への説明の際にはこの部分を活用しながら周知していただきたい。

(委員)

P51 農林水産業について、鮭などの安定水揚げの環境整備とあるが、近年の鮭の不漁についての現状をどう捉えているか。

(産業課長)

非常に危機感を持っている。組合と一緒に県の水産振興課に海面漁業での刺し網漁業を止めてもらうように要望するなど、町も一緒に活動している。町の鮭組合に対する支援は引き続き継続し、洋上風力発電事業が進む中で基金を活用した振興策を検討している中であり、町から鮭がなくなることはあってはならないと思っている。

(大場委員)

水産庁など国へも働きかけながら乗り越えていただきたい。

(委員)

計画書全体の話になるが、DX、Instagram などの高齢者になじみのない用語について、注釈などを付していただきたい。

(事務局)

前回の計画書にも注釈つけていたため、入れる方向で検討したい。

(2)遊佐町総合発展計画(第9次遊佐町振興計画)策定に係る答申内容について

(会長)

答申案について基本計画の審議の中で重要だと言う点について各委員からご意見いただきたい。本日の審議で感じた部分では、行政として縦割りではなく、その枠を超えた中で様々な検討が必要だと感じたところであり、効率的な行政運営の観点からもそういう視点が必要であると考えている。

(委員)

放課後児童クラブ・放課後こども教室の会議などに参加すると、部署・窓口が違うと大変だという意見をよく聞く。

こどもを育てる時に出生数のV字回復が難しい中で、幼稚園・保育園の数をどうするかという点について、早めに整えていかないと子どもが育っていかないということがある。1クラスの人数が 5、6 人になってからではなく、今からどう進めていくか早めに町の方向性を示して取り組む必要がある。

(会長)

行政の縦割りの弊害は、建物の整備だけでなく、子育て支援の中でも出てきているということ。また少子高齢化への対応は、希望的観測だけでなく、早めにきちんと議論する必要がある。目標値を掲げることもいいが、現状を把握しつつ現実的な対応策について、町内各所のステークホルダーを巻き込んで検討する必要がある。

(委員)

子育て環境の整備については、育休の充実なども叫ばれているが、企業における環境整備も必要。どこかで対応するのではなく、全体で対応する必要がある。知恵を出し合い、垣根を越えた取組をしていかないと良い方向に進んでいかない。

(委員)

小さい子どもがいるお母さん、お父さんは子どもが病気になると仕事を休まなければならないくて、仕事を辞めたり、パートに変えざるを得ない状況がある。最近は病気の子どもでも預けられる場所があり、そういった施設整備に力を入れていただきたい。

(会長)

子育ては福祉だけでなく、地域全体で子どもを育てる取組が重要という意見であった。

(委員)

横断的という話があったが、防災と福祉ももっと連携が必要と感じる。個別避難計画がなかなか進んでいかないのも、危機管理部門だけで取り組んでいるからなのか、もっと福祉の観点を含めて協働して進めていただきたい。また、子育ても大事だが、高齢者に優しいまちづくり、安心して高齢者になれるまちづくりを合わせて考えていくことが大事だと思う。

(会長)

高齢者だけではなく、高齢者と子どもの連携といった、高齢者福祉・児童福祉を区切らないことでよりそれぞれの福祉が推進されることを期待する。

(委員)

前回の計画策定の際は部会があったようで、今回の答申のボリューム感が分からないが、横の連携、セクションを超えてという話がある中で、その部分に関連する意見をピックアップしてはどうか。行政の方で認識が弱く、修正や検討を加えようとした項目を中心にまとめていけばよいのではないかと考える。

(会長)

現段階でどの程度の文章量とする予定か。

(事務局)

今回は全体会での審議であったため、前回ベースで考えており2P程度でまとめていく予定。

(委員)

福祉の推進について、民間も含めて取り組んでいる事例として、自分の会社では新聞が2日、3日溜まっている家があったら、役場や民生委員の方に連絡するなどの対応をしている。民間も見守りに参加しているという事例を紹介したい。

(会長)

そういった事例がある中で、町民、民間がいろいろな形で行政に参画するという視点が重要である。

(委員)

遊佐町には築35年～50年になる施設が多く、図書館、生涯学習センター、体育館、農業者トレーニングセンターなどを始め、社会体育教育施設が町の中心地にある状況。今後各施設の改築を

検討する中で、社会体育教育施設の整備が遊佐のまちなか再生につながるという考え方で進めてもらいたい。

米価が今までに無いほど高い水準になっているが、農業者が生産性を維持出来る間にきちんと新規就業者への支援を行い、足腰の強い農業を作っていただきたい。

(会長)

町の基幹産業は農業、水産業になると思う。町としてきちんとその振興策は必須になってくる。町民の活動のベースとなる各種施設の改築等については、まちづくりという観点から計画的に考える必要があるという話であった。単に同じような施設を改築するだけでなく、町の活性化という視点から、まちづくりの再構築を含めた施設整備を行ってもらいたい。

(委員)

今回の審議会で出た我々の意見がどのようにして計画の中に盛り込まれていくか。基本計画の議論で出てきた内容が実現されるような形で実施計画に落とし込んでもらいたい。実施計画は町民に公開するのか。

(事務局)

実施計画は町民に公開している。

(3)今後の予定について

質問・意見なし